

子どもの本だな 63

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

マドレーヌといぬ

ルドウィッヒ・ペーメルマンズ 作・画
瀬田 貞二 訳 (福音館書店)

パリのつたのからんだ古い屋敷に、12人の女の子が先生のミス・クラベルと暮らしていました。いちばんおちびさんのマドレーヌはこわいものしらず。橋の欄干の上を歩いて、すべって川に落ち、すんでにおぼれるというところ、川に飛び込んだ犬に助けられました。犬はジュヌビエーブと名づけられ屋敷で暮らし始めましたが、学校検査の日に評議員に見つかり追い出されてしまいます。みんなで散々さがしても見つかりませんでした。ところが、その日の真夜中、もどってきたジュヌビエーブは12匹の子犬を産みました。

線画は生き生きとして力強く、あざやかな色の絵からはパリの風情を感じます。簡潔でリズムのある文章は子どもの気持ちをうまくとらえ、ジュヌビエーブと暮らす喜びが伝わります。読んでもらえば4歳くらいから。

(西村)

アーサー王物語

R. L. グリーン 編 厨川 文夫・厨川 圭子 訳 (岩波書店)

ブリテン国の王を決める模擬試合が開かれました。少年アーサーは、兄のケイ卿から、宿に忘れた剣を取ってくるよう頼まれますが、宿に入れなかったのが、教会の庭の鉄床に突き刺さっていた剣を引き抜き、ケイ卿に渡しました。しかしその剣は、ブリテン国の血筋正しい王にしか抜けない剣だったので、こうしてアーサーは王となり、ログレス王国を築いて平和に治めました。アーサー王は勇敢で冒険が大好きな、誰からも愛される王でした。王に仕えた円卓の騎士たちも、気高く勇ましい騎士ばかりでした。その騎士の1人ガウェイン卿は、恐ろしい緑の騎士の挑戦を受け冒険に出発します。命を落とす覚悟をしていたガウェイン卿は、騎士としての誓いを守り、誇りを示すことで、無事に生きて帰ります。

アーサー王の誕生からログレス王国の滅亡までを描いた英雄譚です。アーサー王と円卓の騎士たちの冒険劇には胸が躍ります。10歳くらいから楽しめます。(光藤)

1月	2月	1・2月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
10日	7日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
17日	14日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
24日	21日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

<お知らせ>

13歳からの読書会

- 『ドリトル先生航海記』を読んで
- 日時：2月11日(月・祝) 10:30~12:00
 - 場所：図書館 読書会室
 - 対象：中学生以上(要申込)
 - 準備：当日までに本を読んできてください。

『ドリトル先生航海記』(ヒュー・ロフティング 著 岩波書店) 動物の言葉がわかるドリトル先生と一行は、大博物学者ロング・アローを探し航海に出ました。巨大なカブトムシを手がかりにロング・アローを救出し、大カタツムリに乗って帰還するまでの物語。

『分かちあう心の進化』

岩波科学ライブラリー-274

松沢 哲郎 著

岩波書店 212頁 2018年6月刊 1,800円 (請求記号) 489.9

40年前、著者は霊長類研究所でチンパンジーの赤ん坊に出会った。止まり木に座りじっと見つめてくる赤ん坊に、身に付けていた黒い袖当てを与えてみた。赤ん坊は袖当てを受け取ると自分の腕に通し、ひとしきり、たくし上げたり引きずりおろしたりしたあと著者に返してくれた。著者はチンパンジーに魅せられ、この赤ん坊アイを研究することにした。

人間とチンパンジーは、ともに霊長類ヒト科に属し、ゲノム(全遺伝情報)の一致率は98.8パーセントだという。共通の祖先を持つ両者が、500万年から700万年に分岐しそれぞれに進化した。両者に同じものがあればそれは共通祖先に由来し、違うものがあれば分岐後の進化の過程で獲得したと考えられる。著者は、西アフリカ、ギニアのボソソウの野生チンパンジーに対しての野外実験と、研究所での、母となったアイと息子アユムたちの暮らしの中に入り近距離から観察する参与観察を通じて、チンパンジーが見、認識し、記憶しているものから、チンパンジーが世界をどう見ているか人間と比較し、人間とは何かと問い続けた。

霊長類は、樹上で子どもを抱きかかえ母子が密着して子育てをする。人間は進化の過程で、森を出てサバンナで地上生活を始めると、自由な手足で道具を生み出した。子どもをおおむけに寝かせるようになると、母子はまなざしや微笑み、声を交わし、親子の行動は同期する。子どもは、親や仲間と同じことをしたいと模倣を始めるが、他者と同じ経験をすることで、「共感」が可能になり、他者の心の理解につながっていく。チンパンジーの瞬間的な記憶力は人間を上回る。人間は瞬間的記憶力と引き換えに、言葉を獲得し、眼前にないものを思い描く想像力の獲得につながったとも語っている。

チンパンジーの石器使用の発見、図形や数字を使用した言語習得の実験、お絵かきなどが興味深く語られ、子どもを共同養育し、他者のために行動する利他性こそが人間の特徴だとする著者の言葉に改めて人間とは何かを考えさせられる。(片木)

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		X	X	X	4	5
6	7	X	9	10	11	12
13	14	X	X	17	18	19
20	21	X	23	24	25	26
27	28	X	30	31		

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	X	6	7	8	9
10	11	X	X	14	15	16
17	18	X	20	21	22	23
24	25	X	27	28		

毎週土曜日に

「おはなしの時間」を開いています。

- ・4歳～2年生 11:00～
- ・3年生～中3 11:30～

1月のおはなしは、「小さな赤いセーター」「犬とねことうろこ玉」などを予定しています。詳しくはプログラムをご覧ください。

* カレンダーの×印は休館日

* は館内整理日
返却のみ受付(10:00～17:00)

* 開館時間は10:00～18:00
金曜日は20:00まで開館

地下水

天井からブランコがぶらさがっている家があるらしいが、どうやってくっつけているのかと姪が聞く。梁にくくりつけてあるのではと答えたが、姪には梁がわからない。「やまんばに追いかけて、牛方か馬方が隠れるところ」という説明に、「ああ、あれ」と納得した様子。

牛方が山でやまんばに追われ、一軒家に逃げ込むが、それはやまんばの家。梁の上に隠れた馬方が屋根の萱をつかい、やまんばのすぐそばの囲炉裏から餅や甘酒をとる場面は、はらはらさせられる。長い萱で甘酒をツツパツツパ吸うふりをして、姉がけたけたと笑い出した。木の唐戸に入ったやまんばは、馬方に煮え湯を注ぎ込まれ死ぬのだが、初めのうちは「ねずみのやろう、しよんべんなんかひっかけやがって」などと言う。絵本の『うまかたやまんば』を読んだとき、この言葉に親子で大笑いしたらしい。姉が楽しそうにやまんばの言葉を繰り返して、甥も笑い出した。そばで、姪がぼつりと「きのから」とつぶやいた。

姉親子が本を楽しんでいる様子もだが、姪のつぶやきもうれしく感じた。不思議な響きとして言葉をためているのだと感じた。そのものと言葉を一致させるのに長い時間がかかるとしても、それまでゆっくり自分のなかで想像し、形作っていつてくれればと思う。

(竹内)

